



一般社団法人 日本建設機械施工協会 東北支部 支部たより

とろろく

Summer 2014

Vol.167



東北支部第62回通常総会開催

平成25年度除雪機械展示・実演会開催

EE東北'14見聞記

目 次

巻頭言 復興を後押しするビッグプロジェクト＜国際リニアコライダー＞	1
(一社)日本建設機械施工協会東北支部 副支部長 (鹿島建設(株) 専務執行役員 東北支店長) 赤沼 聖吾	
東北支部第62回通常総会開催	2
国土交通省コーナー	
東日本大震災の経験を踏まえた応急組立橋の新たな取り組み ～より迅速な応急組立橋架設を目指して～	6
東北地方整備局 東北技術事務所 防災技術課 企画部施工企画課、道路部道路管理課	
「平成25年度除雪機械展示・実演会」開催	10
新潟トランス(株) 齋藤 彰一	
EE東北'14 見聞記	14
建設部会長 清水建設(株)東北支店 佐野 真	
安全コーナー 液化石油（L P）ガス非常停止装置について	18
(株)NIPPON 菅野 公正	
『名取川・阿武隈川下流総合水防演習』に参加して	20
技術部会長 (株)電業社機械製作所 山岸 嗣宏	
【橋梁架設・大口径岩盤削孔の施工技術と積算、および建設機械等損料講習会】開催	22
平成26年度【情報化施工セミナー（仙台会場）】開催	23
平成26年度【第7回建設施工研修会（技術映画会）】開催	24
支部行事・会員消息	25

【表紙写真】

岩沼市：千年希望の丘（写真 事務局）

復興を後押しするビッグプロジェクト ＜国際リニアコライダー＞

(一社)日本建設機械施工協会東北支部 副支部長

(鹿島建設株) 専務執行役員 東北支店長 赤沼 聖吾



震災から3年4か月が過ぎました。

復興に向け、被災各地で事業が進められておりますが、復興スピードの2極化が鮮明になってきているように思います。自治体規模が大きく、中心市街地に被害が少なかったところと、自治体規模が小さく、中心市街地に被害が多かったところが両極をなしています。被害の大きかった自治体も懸命に努力していますが、時間が経つにつれ、人口減少に歯止めがかからない状況になり、復興を更に難しくしており、課題が明らかになりつつあります。復興が加速してきている今、その課題を共有し、解決するための方策に知恵を絞る必要性を感じております。若い人達の働く場は確保できるのか、子供を育て世代交代を起こせるのか、コミュニティを作れるのか、復興まちづくりの最終の形は、未だ見えない部分も多く、まちづくり作成のレベルを上げなければ、立派な道路はできたが、それを使う住民がいない、産業が無いということになりかねません。

震災直後、復興は元に戻すのではなく「新しい東北の姿」を造らなければならないと、多くの方々がそれぞれの立場で発言されておりましたが、その実現には程遠い現実になってきております。法律の壁、予算の壁、政治の壁の高さを感じます。

このような状況の中で、東北の復興を強力に後押しすると考えられる、ビッグプロジェクトの国内候補地が東北の北上山地に決定しました。素粒子実験施設「国際リニアコライダー (ILC)」プロジェクトです。

私とILCとの出会いは、私が現場から支店に上がり、営業統括部長になりました1999年に遡ります。国際経済研究調査会(当時 平岩外四会長)が将来を担う重要な科学技術テーマとしてILCを選定し、科学者を中心に勉強会を行っていました。そこに参加したのがILCとの出会いで15年になります。

ILCについて説明しますと、リニアは直線、コライダーは衝突加速器の意味です。加速器の例として身近なものでは、テレビのブラウン管や電子顕微鏡、医療分野でPETや癌治療などで使われています。ILCの仕組みは、地下深さ100mのレベルに31km(将来50km)の長さのトンネル内に設置する、精密な超高真空ビームパイプの一方の端から電子を、もう一方の端から陽電子のビームを入射してほぼ光の速さまで加速し、中央部分で正面衝突させ、ビッグバン(宇宙の初めに起きたとされる大爆発)とほぼ同じ高エネルギー状態を「ほんの一瞬だけ」作り出し、その瞬間に発生する素粒子等を測定解析することで、宇宙誕生の謎を解明しようというものです。応用分野として、医療・生命科学、新素材・材料、エネルギー・環境、計量・計測、情報通信などでの新産業の創出が期待されます。

建設費は機器類も入れ約1兆円が見込まれ、建設10年、運用20年とされており、その間の生産誘発額は約4.3兆円、誘発雇用者数は延約25万人、東北における加速器関連産業の規模は約6兆円になるとも言われています。その他にも、中核研究拠点・先端産業集積拠点として約460ha、国際交流生活エリアとして約60haなど、その整備に約3,000億円の投資がなされます。必要とされる技術分野は機械加工技術、制御技術、電気・電子技術、情報通信技術、計測技術、それに加え我々が関係する建設・土木関連技術など、幅広い分野に跨り、産業における技術革新が期待されます。

実現すると、この東北に世界の頭脳が集積し、最先端の科学創造と技術革新を先導する国際科学技術研究圏域が形成され、ノーベル賞クラスの研究成果がどんどん出てくると言われています。世界トップクラスの人材を育み、世界に発信する「最先端の科学の地」となることで、「東北の質」が変わると考えております。

また、研究成果が新産業を生み、応用分野の裾野を拡げ、関連産業が集積することにより、長期間の投資と経済効果が期待されますし、自然や文化の豊かな東北に、世界から人が集まり交流する事で「東北」の名が広まり、インバウンドの海外観光客の増加も期待されます。

ILC本体の建設スケジュールは、政府間交渉、機器、施設詳細設計、国際研究所の準備を2016年頃までに、国際合意の形成、国際研究所の設立、調達の準備を2018年頃までに、建設・土木関連工事は2018年頃着工し、機器の設置など完了し、ILCの完成は2028年頃を予定しております。

復興を強力に後押しする事業として、科学の最先端をいく実験施設を最先端の土木技術で支えなければなりません。深度100m、直線50kmの高精度のトンネル、中心部分の東京ドーム半分位の空洞、自然環境を守りながらの国際都市づくりなど、日本建設機械施工協会・構成各社の力量が試され、またそこに新たな技術が生まれる可能性が秘められていると考えております。

●●●●● 東北支部第62回通常総会開催 ●●●●●

一般社団法人日本建設機械施工協会東北支部第62回通常総会は、平成26年5月13日(火)15時から仙台ガーデンパレス（仙台市宮城野区榴ヶ岡4-1-5）において、本部から辻 靖三会長を迎え、高橋 弘東北支部長をはじめ、支部の役員、一般会員等のご参加を得て盛大に開催されました。

総会は、支部規程に従い高橋 弘支部長が議長を務め、次の次第により進められました。

また、総会及び表彰式終了後に、支部役員、会員等多数が出席し、「言葉の力、生きる力」と題して言の葉アーティストの渡辺祥子様の特別講演会が催され、滞りなく総会が終了出来ました。会員の皆様、関係した各位に対して厚く御礼申し上げます。



高橋支部長挨拶

1. 日 時 平成26年5月13日(火) 15:00～
2. 場 所 仙台ガーデンパレス
(仙台市宮城野区榴ヶ岡4-1-5)
3. 議 決 権 総 数 120社
4. 出席議決権数 111社（うち委任状65社）
5. 出席者総数 75名



本部 辻会長挨拶

1. あいさつ

東北支部長 高橋 弘
本部長 辻 靖三

2. 総会成立宣言

本総会への出席団体会員数は、120社のうち111社（うち委任状65社）の出席で、団体会員の過半数を超える出席数に達し、支部規程第17条に基づいて、本総会が成立したことを事務局長から報告があり、議長が総会成立宣言を行なった。

3. 議事録署名人等の選出

議長は、次の方々を書記及び議事録署名人に指名した。

書記

(株)I H I インフラシステム東北営業所 東北営業所長 日比 重光 氏
西尾レントオール(株)東北営業部 部長 中野 浩二 氏

議事録書名人

豊国工業(株)東北支店 東北支店長 中澤 慎二 氏
(株)日本除雪機製作所 仙台営業所 仙台営業所長 稲村 正弘 氏

4. 議 事

支部規程第16条に基づき、高橋 弘支部長が議長を務め、第1号議案から議事が進められた。

第1号議案 平成25年度事業報告承認に関する件

議長が第1号議案について、その趣旨を事務局から説明させ、その議案について承認の可否をはかったところ、異議なく拍手多数で承認された。

第2号議案 平成25年度決算書承認に関する件

議長が第2号議案について、決算内容を事務局から説明させ、議案の承認の可否をはかったところ、異議なく拍手多数で承認された。

第3号議案 支部監査役について

議長が第3号議案について、東北支部監査役承認経緯について事務局から説明させ、議案の承認の可否をはかったところ、異議なく拍手多数で承認された。

第4号議案 平成26・27年度役員の改選に関する件について

議長は第4号議案について、平成26・27年度役員名簿（案）を事務局から説明させ、承認の可否をはかったところ、異議なく拍手多数で承認可決された。

第5号議案 平成26年度事業計画（案）に関する件

議長が第5号議案について、その趣旨を事務局から説明させ、承認の可否をはかったところ、原案どおり拍手多数で承認可決された。

第6号議案 平成26年度予算（案）に関する件

議長が第6号議案について、その内容を事務局から説明させ、承認の可否をはかったところ、原案どおり拍手多数で承認可決された。

その他 特に意見・要望なし。

5. 本部報告

協会本部 辻 靖三会長から、本部の平成26年度事業計画（案）の要点について説明があった。平成25年度事業報告、予算執行報告等は、本部理事会未開催のため省略された。



総会風景

6. 本部長感謝状贈呈及び支部長感謝状並びに支部長表彰状（建設機械化功労者表彰・優良建設機械運転員・整備員表彰・優秀建設施工技術表彰）の贈呈

第62回支部通常総会に引き続いて、本部長から感謝状贈呈があり、また、東北支部長からも感謝状贈呈並びに支部長表彰（機械化功労者表彰・優良建設機械運転員・優良建設機械整備員）が行われた。

【本部長表彰】

【永年会員表彰（感謝状）】

永年支部団体会員として事業の推進に尽力され、建設機械・建設施工の発展に貢献した。（敬称略）

①会員期間50年 3社

(株)タダノ東北支店

新潟トランス(株)東北営業所

日立建機日本(株)東北支社

②会員期間40年 2社

清水建設(株)東北支店

日本道路(株)東北支店

③会員期間30年 1社

富士建設(株)

④会員期間20年 1社

(株)小野良組



本部長表彰

【支部長表彰】

支部長表彰は、支部表彰規程に基づき支部会員からの推薦と、表彰者選考委員会の推薦により受賞が決定された次の方々に高橋 弘支部長から表彰状と記念品が贈られた。

①〔建設機械化功労者〕

建設機械化功労者表彰は、永年建設の機械化業務に従事して業務に精励し、併せて支部の役員として建設機械化の普及促進に貢献した次の方に贈呈された。（敬称略）

青木 敏久 前田建設(株)東北支店

島津 藤夫 (株)興和東北支店

佐野 真 清水建設(株)東北支店

西牧 潤 (株)セイトウ社

佐藤 勉 日東河川工業(株)東北営業所

甲田 仁 日立建機日本(株)東北支社

田中 盛美 住友建機販売(株)北海道東北

中野 均 (株)佐々木建設工業 8名



支部長表彰

②優良建設機械運転員

優良建設機械運転員表彰は、満15年以上建設機械の運転業務に従事し、職務成績が優秀で他の規範である次の7名に贈呈された。（敬称略）

情野 幸雄 (株)後藤組

小松 庄康 高吉建設(株)

藤村 直樹 万六建設(株)

杉森 利浩 寺嶋建設工業(株)

寺嶋 実 寺嶋建設工業(株)

合野口英則 (株)N I P P O東北支店

佐々木淳治 (株)NIPPON東北支店 7名

③優良建設機械整備員

優良建設機械整備員表彰は、満15年以上建設機械の整備に従事し、職務成績が優秀で他の規範である次の3名に贈呈された。(敬称略)

大沼 武徳	コマツ山形(株)	
木村 稔	三洋テクニックス(株)	
官澤 和幸	キャタピラー東北(株)	3名

以上の感謝状贈呈および 表彰状贈呈が終了後、受賞者全員と支部役員により記念撮影を行い、総会及び感謝状贈呈などを滞りなく終了しました。



受章者の方々

7. 特別講演会の開催

総会並びに感謝状並びに表彰状贈呈終了後、総会と同じ会場に於いて特別講演会を開催した。あまり聞けない「言の葉アーティスト」と称する「言葉」を通じて人生を語る話題とあって、皆さん熱心に聞き入っていました。議題及び講演者は次のとおりです。

演 題 「言葉の力、生きる力」

言の葉アーティスト 渡辺 祥子 様



講演会風景

東日本大震災の経験を踏まえた応急組立橋の 新たな取り組み ～より迅速な応急組立橋架設を目指して～

東北地方整備局 東北技術事務所 防災技術課
企画部施工企画課、道路部道路管理課

災害で通行不能となった橋梁の応急復旧を目的とした応急組立橋は、東日本大震災においてその威力を発揮しましたが、架設・供用まで相当日数を要しました。この大震災対応を契機に緊急車両等の通行を一刻も早く確保するため、新たなコンセプトで導入した応急組立橋を紹介します。

1. はじめに

平成25年3月、東北地方整備局では東日本大震災の対応を契機として、新たなコンセプトに基づく「応急組立橋」を東北技術事務所に導入しました。応急組立橋は、災害などにより被災し通行できなくなった橋梁の代替として応急的に架設し、早期に通行を回復させることを目的とした組立式鋼橋です。

東日本大震災では、北陸地整から応援を得た国道45号「川原川橋（陸前高田市）」（写真－1）や国道45号「水尻橋（南三陸町）」（写真－2）では陸上自衛隊がMGB橋（軽量アルミパネル橋）を派遣するなど、応急組立橋は、大規模災害において緊急車両の早期通行確保に大きな威力を発揮しました。

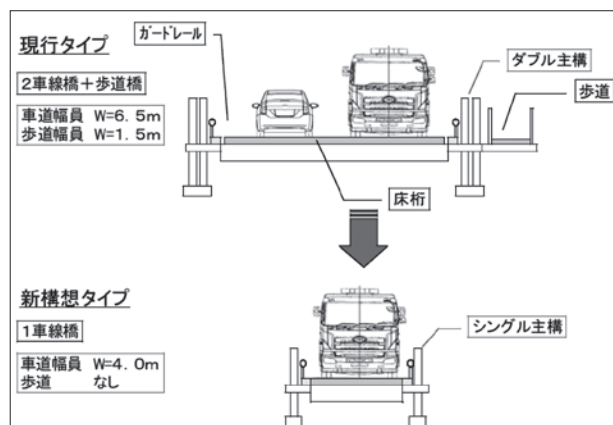


写真－1 北陸地整応急組立橋（川原川橋）



写真－2 陸上自衛隊MGB橋（水尻橋）

また、東日本大震災は、津波等により想定を超える甚大な被害をもたらし、より多くの人命を救う必要が生じたことから、これまで以上に短期間で応急組立橋を架設し、一刻も早く緊急車両を通行させる目的が加わり、今までの一般の通行を回復させる目的の他に、応急組立橋のコンセプトに一つの変化を与えました。今回、こうした変化に対応するため新たに導入した「応急組立橋」を紹介します。



図－1 新たな応急組立橋コンセプト

2. 新たな応急組立橋の特徴と仕様

従来の応急組立橋は、被災した橋梁と同等の機能を復旧させることをコンセプトとした2車線＋歩道の幅員

構成でしたが、今回導入した応急組立橋（写真－３）は、緊急車両を少しでも早く通すことをコンセプトに１車線で歩道なしの幅員構成（図－２）に変更し、以下の特徴を持っています。

（特 徴）

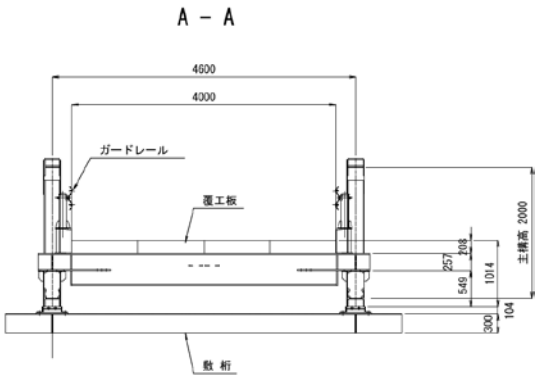
- ①車道幅員を４ｍ（片側通行）とし、橋梁自体の軽量化による主構一括架設が容易となり、架設時間の大幅な短縮を図りました。
- ②主構パネルのピン接合や組立用ボルトの規格の統一化、覆工版の大型化等の構造の工夫により、組立時間の短縮を図りました。
- ③全部材は１１ｔ平積みトラックに積載可能なように設計したので、運搬が容易になりました。



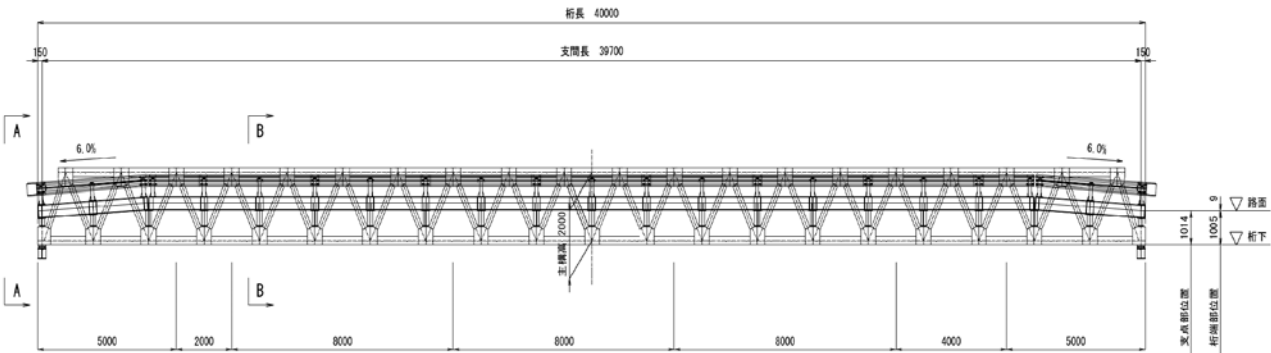
写真－３ 応急組立橋（B-C2401）全景

表１ 応急組立（B-C2401）仕様

形 式	単純下路式組立ワーレントラス橋
桁 長	40.0m（10mから２m毎に40mまで取付桁14m×２）
車道幅員	4.0m
主構高さ	2.0m
設計荷重	B活加重（25 t）



図－２ 幅員構成



図－３ 応急組立橋一般図

3. 試験施工による架設時間の短縮効果

東北技術事務所では納入時に架設試験施工を実施しました。構内道路を擬似的な災害現場と見なし、「200 tトラッククレーンによる主構一括架設（写真－6）」により実施しました。

架設方法は現場条件から工法が選定されますが、地組ヤードやクレーン設置場所を確保できる場合、大型クレーンで主構を一括で地組、架設する方法が最も一般的です。本応急組立橋の特徴である軽量化などによる架設時間の短縮効果をフルに発揮することが可能で、非常に迅速な架設を行うことができます。

施工手順及び架設時間（①、②の準備等時間を除く）は表－2のとおりであり、従来型の40 hに対して新型は21 hで約1／2に架設時間が短縮され、本応急組立橋の十分な効果が確認されました。

また、架設作業関係者に構造や施工手順を容易に理解してもらうため、試験施工時の一連の作業状況を記録し、ビデオ取扱説明書にまとめ、さらに理解を深めるため訓練用模型を製作し、今後の迅速かつ円滑な運用体制の確保に向けた取り組みを実施しました。

4. おわりに

東日本大震災の経験から応急組立橋の必要性が改めて認識され、今回の導入でハード面の強化を図ることができました。一方、これを迅速かつ円滑に運用するためには、ソフト面の習熟を図る必要があります。訓練や担当者の育成、知識の引き継ぎなど、ソフト面の取り組みを継続的に実施すべく、平成26年3月に「応急組立橋講習会」を開催しました。

講習会には災害協定団体の会員12社20名が参加し、主構の一括架設や主構のピン接合などの重要工程を実地（写真－4）で学んで頂き、ビデオによる取扱説明や訓練用模型を使った座学（写真－5）により全体の組立工程を習得して頂きました。

こうした取り組みを今後も継続的に行い、有事の際にも確実に対応できる体制を備えておきたいと考えています。

表－2 主構一括架設の手順と架設時間の比較

工 程		所要時間	
		新型	従来型
①	主構地組ヤード及び部材荷下ろし場所の選定、整備	－	－
②	部材荷下ろし、クレーン準備	－	－
③	主構の地組（60 t ラフタークレーン）	4 h	40 h
④	主構一括架設（200 t トラッククレーン）	1 h	
⑤	横桁、横構の取付	4 h	
⑥	車道覆工板、ガードレールの設置	4 h	
⑦	取付桁の設置	8 h	
計		21 h	40 h

新 型：L=40m×1車線（W=4 m）歩道無し

従来型：L=40m×2車線（W=6.5m）歩道あり



写真－4 講習会実施状況（実地講習）



写真－5 講習会実施状況（座学講習）

200tクレーンによる主構一括架設 構内試験状況

1. 主構地組



2. 主構一括架設



3. 横桁組立



4. 覆工板組立



5. ガードレール組立



6. 供 用



写真ー6 200tトラッククレーンによる主構一括架設

「平成25年度除雪機械展示・実演会」開催

新潟トランシス㈱ 齋藤 彰一

はじめに

「自然あふれる冬の魅力を道東から発信！」をテーマとしたイベント「ふゆトピア・フェアin釧路」の一環として、除雪機械展示・実演会が平成26年1月23日～24日の2日間開催されました。

「除雪機械展示・実演会」は、釧路港耐震旅客船岸壁を会場として開催され、除雪機械に関連するメーカー7社と（独）土木研究所寒地土木研究所から先端技術を駆使した除雪機械の出展があり、多くの方々が来場してくださいました。

1. 開催地 釧路市

2. オープニングセレモニー

23日の午前10時からオープニングセレモニーが行われました。気温は-10℃となっておりましたが晴天に恵まれ、最初に、国土交通省総合政策局公共事業企画調整課岩見施工安全企画室長様の来賓あいさつに続き、（一社）日本建設機械施工協会の辻靖三会長から開会の挨拶があり、展示、実演会関係者7名の方々によるテープカットで開幕しました。



テープカット

3. 会場状況

1月の釧路市内は、例年になく少雪となりました。会場は足場が大変良く、会場の前を流れる釧路川が若干凍るほど気温は低かったものの、会期中は晴天に恵まれました。

国土交通省技監をはじめ、国、自治体や除雪請負関係者の方々が来場されました。

また、くしろカトリック幼稚園の園児が大変興味を持って見学していました。来場者は、2日間の合計で1600名となりました。



ロータリ除雪車実演

会場の出展ブースは、横一列になり機械も見やすく展示されていました。会場には実演会用の雪山が設けられ、日本除雪機製作所の協力により小形除雪車KBR105の実演が行われました。

4. 出展機械等

出展会社は、（独）土木研究所寒地土木研究所とメーカー7社となりました。出展機械等は表-1のとおりです。

表-1 出展除雪機械等一覧

No.	出展企業	出展機械名	規格性能等	台数	実演
1	日野自動車(株)	凍結防止剤散布車用シャシ	GX7JGAA GAX	1	
2	(株)日本除雪機製作所	ロータリ除雪車	HTR407	1	
		小形除雪車	KBR105	1	○
		凍結防止剤散布車	NWS25SS5	1	
3	(株)協和機械製作所	スノーパ除雪車(自走式)	SCB-250FA	1	
4	範多機械(株)	凍結抑制剤散布車	MS-20MGH (T)	1	
		汚泥吸引装置	VL-26	1	
		手押し式散布機	MS-01D	2	
5	名古屋電機工業(株)	散光式警光灯	XB52-A2B000他	5	
6	新潟トランス(株)	小形除雪車	NR143	1	
7	UDトラックス(株)	除雪専用車	CZ (ATM)	1	
8	(独)土木研究所寒地土木研究所	氷板・圧雪路面処理装置		1	
		連続路面すべり抵抗値測定装置		1	

【(株)日本除雪機製作所】**ロータリ除雪車 (HTR407)**

第4次排ガス規制対応のエンジン出力354kW (481 P S) を搭載し、除雪幅は2.6m、除雪能力は3,600 t / h と多雪地帯向けロータリ除雪車で、油圧式シャーペンレス装置など多彩なオプションが用意されています。

小形除雪車 (KBR105)

1.5m級フロントタンデム6輪駆動の小形除雪車です。こちらも第4次排ガス規制対応のエンジンを搭載しています。6輪ゆへの走行性能の良さと、除雪用ブラウ、草刈装置などが装着できる車両となっております。



(株)日本除雪機製作所のブース

凍結防止剤散布車 (NWS25SS5)

2.5m³のホッパ容量、700Lの水溶液タンクをもつ湿式の凍結防止剤散布車です。薬剤の搬送はスクリーコンベア式で、散布円盤を左右30°まで切り替えることが出来ます。

【(株)協和機械製作所】**スノーパ除雪車 (SCB-250FA)**

自走式の空港用高速スノーパ除雪車です。滑走路などの新雪を高速回転ブラシで掃き飛ばし、残った雪をさらに高圧ブロア排風で吹き飛ばします。

旋回時は、車両の旋回半径の変化に連動して、ブラシのアングル角を連続的に制御することで、旋回除雪幅を維持する機能を装備しています。ブラシ及びブロア回転回路には、H S Tを採用しているため、効率的で発熱も少ない機構です。



(株)協和機械製作所のブース

また、ブラシの摩耗や雪質の変化、路面勾配の変化に対して、ブラシ接地幅の微調整を可能とする機能や、摩耗によるブラシ外径の変化や作業速度の変化に対して、ブラシ回転速度を最適となるように自動制御する機能もオプションで対応可能です。

【名古屋電機工業(株)】**LED散光式警光灯FLIX**

全面全方位発光し、2スピーカーを搭載。

スピーカーホーンと取付足を一体化することで、高さ90mmという超薄型LED散光式警光灯を実現しました。

スタイリッシュなデザインに加え、軽量、省電力であり、点滅パターンを変更することができ、シーンによって選択可能です。

薄型なので、車両の高さを抑えることにも貢献します。

【UDトラックスジャパン(株)】

除雪専用車 (CZ6×6ATM)

302kW高出力エンジンと6×6総輪駆動のシャシに、除雪幅4500mmのワンウェイプラウを装着した道路用の除雪トラックです。

さらに環境性能は、「超高压燃料噴射式+UDパーティキュレートクリーニング+尿素SCR触媒」により、平成21年排出ガス規制（ポスト新長期）に適合しています。

安全性や運転環境への徹底した配慮など、UDトラックスの最新テクノロジーを投入しています。



名古屋電機工業(株)のブース



UDトラックスジャパン(株)のブース

【範多機械(株)】

凍結抑制剤散布車 (MS-20MH)

ホッパ容量2.0m³の自走式小型薬剤散布車です。薬剤の送り出しはベルトコンベア方式を採用しています。動力源としてサブエンジン油圧パワーユニットを搭載しております。散布に関する操作は運転室内からコントロールできます。ステンレス製ホッパは、低重心で安定性が良く、薬剤の供給も容易でブリッジ発生も殆どありません。バックモニター、車載標識装置などのオプションも取り付け可能です。

汚泥吸引装置 (VL-26)

ディーゼルエンジンを搭載したバキュームローダです。-50kPaの真空圧で吸引し、小型軽量なので3トン級トラックに積載したまま作業が可能です。タンク容量は860Lの容積があり、汚泥や碎石を吸引するほか、アタッチメント装着で油吸着材の回収もできます。



範多機械(株)のブース

手押式簡易散布機 (MS-01D)

ホッパ容量0.05m³の散布材自然流下式の手押し型円盤散布機です。ホッパ内に散布材を投入し、円盤回転は車輪連動方式で最大散布幅は5mで定量かつ均一散布が可能です。

【日野自動車(株)】

凍結防止剤散布用シャシ (GX7JGAA 4×4)

162kWディーゼルエンジンを搭載した散布車用シャシです。クリーンディーゼルシステム「エア ループ」を採用し、平成21年（ポスト新長期）排出ガス規制に適合しています。

また、メーター類等の視認性を向上させ、運転環境、機能性にも配慮したキャビンとなっています。国内の散布車に幅広く使用されています。

【新潟トランス(株)】

小形除雪車 (NR143)

第4次排ガス規制対応のエンジン出力90kWを搭載したロータリ除雪車です。除雪幅は、1.5mまたは1.8m



日野自動車(株)のブース



新潟トランス(株)のブース

を装着可能で、狭隘道路での拡幅除雪や積込作業に適しています。除雪能力は、950 t / h となっており前モデルと同等としながらも、エンジン出力は14%減に成功し省力化を実現しています。

排ガス処理装置はDOCシステムであり、メンテナンスフリーとなっており使用者の負担も考慮しました。

[(独)土木研究所寒地土木研究所]

氷板・圧雪路面処理装置

歩道用小形除雪車に装着した氷板・圧雪路面処理装置は、歩行者等により踏み固められた滑りやすい路面を処理するために開発された装置です。回転部につけたピック（丸鋼）を自重で押し付け、走行の推進力で回転させることで雪氷路面を破碎処理します。

フロントおよびリアのエッジにより、破碎後の雪氷塊を歩行路面の端部に排雪することも可能です。



氷板・圧雪路面処理装置

連続路面すべり抵抗値測定装置

車両の後部にタイヤを装着し、連続して路面すべり抵抗値を測定できる装置です。冬季の路面管理において、状況の把握や路面対策の効果を検証する手段として期待されます。



連続路面すべり抵抗値測定装置

おわりに

毎年「除雪機械展示・実演会」を行っており、近年では排出ガス基準に適合したエンジンを搭載し、新モデルが展示されるケースが多くなっているように思われます。また、オペレーターの負担を軽減するような装置等も見受けられ、除雪機械が日々進化しているところを実感できました。

今回の「除雪機械展示・実演会」には、地元の幼稚園児等の見学もありました。年々除雪事業者の高齢化が問題になることがありますが、このようなイベントを通して、若い世代にも除雪に興味を持っていただく良い機会であったと思います。

また、別会場では除雪車チャンピオンシップ競技会も開催され、ベテランオペレーターによるテクニックに歓声が上がっていました。

次回は新潟県長岡市を会場にして行われる予定ですが、雪の多いところですので盛況に開催されることを期待しています。



EE東北'14 見聞記

建設部会長 清水建設㈱東北支店 佐野 真

平成26年6月4日(水)～5日(木)の2日間、建設技術公開「EE東北'14」が、仙台市の夢メッセみやぎで開催されました。(一社)日本建設機械施工協会東北支部建設部会員を代表し、2日間の様子をレポートさせていただきます。

今回のEE東北'14は「活かそう新技術 復興から発展へ」をテーマとして開催され、出展者数：298社、出展技術数：782技術、また、来場者数：約12,800人と全において過去最高を記録しました。

初日となる6月4日午前10：00より、夢メッセみやぎコンコースにおいて、開会式が盛大に執り行われました。東北地方整備局の安田吾朗企画部長の開会宣言に続き、小池剛東北地方整備局長挨拶、来賓を代表して国土交通省総合政策局 公共事業企画調整課長の山内正彦課長から祝辞がありました。

来賓者によるテープカットで開幕を祝った後、来場者が一斉にお目当てのブースを目指して、屋内・屋外の展示会場に入って行きました。



会場となった夢メッセみやぎ



山内正彦 公共事業企画調整課長の来賓祝辞



来賓者によるテープカット

今年度の出展技術を分野別に見てみると、①復旧・復興：195件、②建設段階：145件、③維持管理・予防保全：232件、④建設副産物・リサイクル等：15件、⑤防災・安全等：152件、⑥その他共通：43件という内訳になり、やはり「3.11東日本大震災からの復旧・復興」、「インフラの長寿命化」といった技術が多いのが特徴的でした。

(一社)日本建設機械施工協会東北支部からは、以下の13社（他団体から出展している企業を含めると26社）が出展しました。

【(一社)日本建設機械施工協会からの出展者と出展技術】

企業名	主な出展技術
IHIグループ	応急用橋梁 他
(株)イマイギレ	自走式土質改良機 他
置賜建設(株)	乾式吹付工法 他
(株)興和	地熱利用ヒートパイプ融雪工法他
コマツ建機販売(株) 東北カンパニー	中型ハイブリッド油圧ショベル他
(株)拓和	水温補正付水晶式水位計 他
東北グレーダー(株)	グレードハウス プラス ソーラー
西尾レントオール(株)	GPS・自動追尾転圧締固め管理システム 他
日本キャタピラー(株)	Catグレードコントロール 他
範多機械(株)	ポータブル式汚泥吸引装置
東日本コベルコ建機(株)	iND r 搭載型極低騒音バックホウ 他
福井コンピューター(株)	EX-TREND武蔵 他
古河産機システムズ(株)	トンネル工事用電気集塵機 他



屋外展示状況【イマイギレ】



屋外展示状況【東北グレーダー】



屋外展示状況【範多機械】



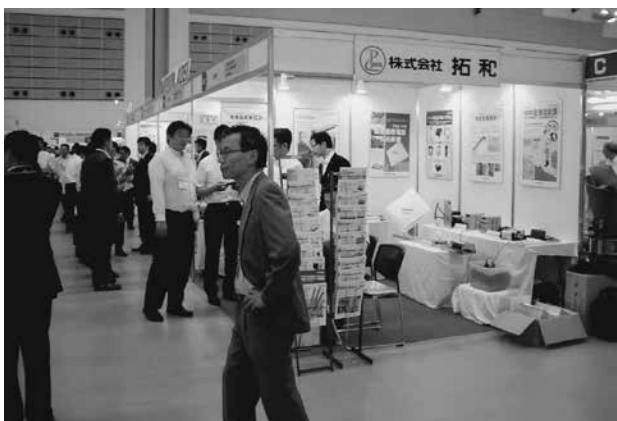
屋外展示状況【東日本コベルコ】



屋内展示状況【IHIグループ】



屋内展示状況【興和】



屋内展示状況【拓和】



屋内展示状況【日本キャタピラー】

その他にも、ゼネコン各社・専門工事業者・建機メーカー・環境機械メーカーやコンサルタント、さらに大学や東北地方整備局関連のブースも数多くあり、産学官から多くの新技術が展示されていました。

「E E 東北'14」のもう一つの目玉は、会場中央の特設ステージで行われたプレゼンテーションです。2日間で延べ40テーマについてのプレゼンテーションが行われました。その中で、東北地方整備局が「新技術活用への取組みについて」、また東北大学工学研究所インフラマネジメントセンターが「東北地方のインフラの維持管理支援技術拠点」というテーマでのプレゼンテーションもあり、多くの方が熱心に耳を傾けていました。



新技術プレゼンテーションの様子



特設コーナー【復興道路を支える10の建設技術】

また、会場内コンコースには「復興道路を支える10の建設技術」と「インフラを支える維持管理・予防保全の技術」の2つのコーナーが設けられ、現在進行形で施工が進められている技術が紹介されていました。このように、復旧・復興工事の現状と新しい取り組みを積極的にPRし、広く理解を得ることは大変重要なことだと感じました。また、これからの社会を考える上で避けて通ることができない「インフラの長寿命化」についても問題提起していく姿勢が大切だとも感じました。

毎年、好評を博している「高校生橋梁模型」のコーナーでは、今年も多くの人が立ち止り、東北6県の土木系高校生の力作に見入っていました。来場者の中にも多くの土木系高校生・大学生が見受けられ、これからの建設業を担う若い力がすくすくと育ってくれればと願うばかりです。



特設コーナー【インフラを支える維持管理・予防保全の技術】



高校生橋梁模型コーナー

E E 東北は平成2年から開催されており、今回で24回目を迎えました。年々出展者数も来場者数も増え続け、建設業会だけでなく広く一般の方にも認知されてきているようです。

国民の安全・安心を担う建設業がこれから益々発展していくためには、このようなイベントを通じて情報発信していく必要があると思います。そのためには、(一社)日本建設機械施工協会東北支部を始め、関連する団体がさらに力を合せていく必要があると感じました。

2日間にわたるレポートで、様々な技術・トピックまた各社の熱気あふれる雰囲気に触れることができ、大変面白かったというのが率直な印象です。

皆さんも是非、来年「E E 東北'15」に出かけてみませんか！

安全コーナー

液化石油（LP）ガス非常停止装置について

（株）NIPPPO 菅野 公正

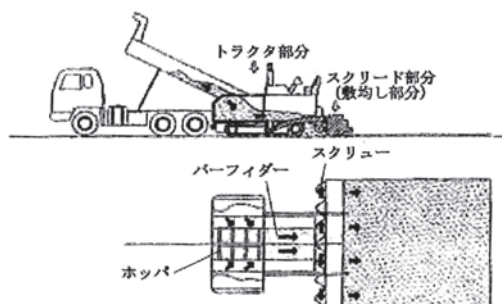
建設機械は、過去の災害事例や経験と実績等を踏まえた安全機能を、数多く機械自体に備えており、非常に興味深い。

現場に携わる我々には、細部にわたりその機能が備えられていることに、本当に感心させられるし、これにより大いに安全性が向上していると言えよう。

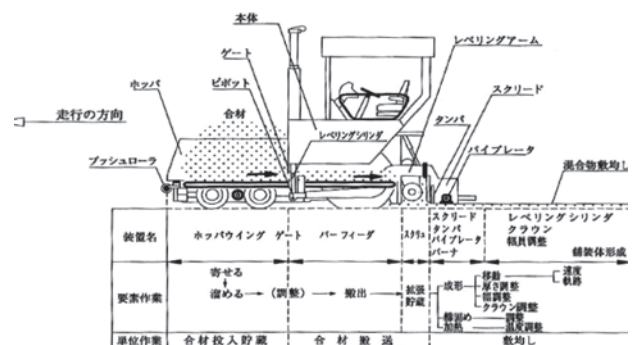
今回は、道路舗装工事で、アスファルト混合物（以下、A s 混合物）を敷きならすアスファルトフィニッシャについて、それに装備されている数多くの安全装置の中から、その一例を紹介する。

住友建機製造（株）製アスファルトフィニッシャ「LPガス非常停止装置」について解説する。

アスファルトフィニッシャ（以下AF）は、混合物を所定の幅と厚さで敷きならす機械である。（図－1）



図－1 アスファルトフィニッシャの混合物の流れ



図－2 アスファルトフィニッシャの機能と要素作業

混合材ダンプからAFのホッパ内に受けた混合物は、バーフィダーで送られスクリュウ軸の回転により、スクリード装置の全幅にわたり均等に敷き拡げられる。

ここで、スクリードとは敷きならし装置のことであり、ピボットとレベリングアームを介して、車体の中央に取り付けられている。このスクリードに仰角をつけることで混合物による押上げ力と、スクリード装置の重量とがバランスを保ち、一定の敷きならし厚さと平坦性を確保することができる。（図－2）

また、きれいに敷きならすために、スクリードプレートへの混合物の付着を防止する必要がある。これは、スクリードプレートを加熱することで対応している。この加熱の熱源に、LPガスボンベが活用されている。

ここで、仮にスクリード装置のガスホースが切れてバーナの火が引火した場合、従来の消火方法は、ストップバルブを閉めるか、ガスボンベの元栓を閉めること、あるいは、消火器を使う等である。（図－3）

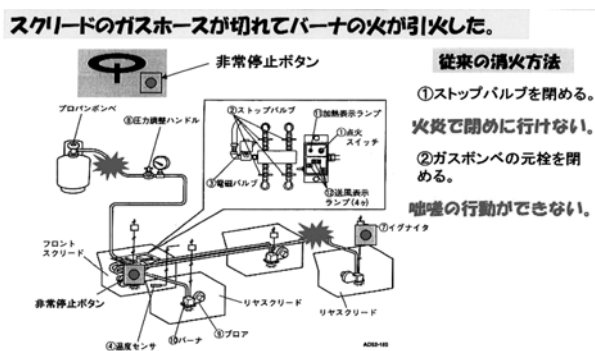


図-3 従来のガスホースが切れた場合の消火方法

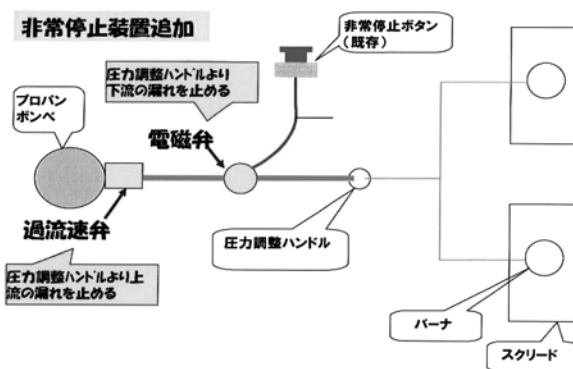


図-4 本装置の仕組み

しかし、火災でとてもバルブを閉めに行けない場合があり、また、咄嗟の判断でその行動がスムーズにできない場合も多いと考えられる。

そこで、過流式ガス放出防止装置（以下、過流速弁）とAF本体の非常停止ボタンに連動した、「電磁弁を備えたLPガス非常停止装置・図-4）」を考案した。

これは、過流速弁により、ガスボンベからレギュレータ間でのホースの折損、外れ等の異常時に、自動的にガスを遮断することができる装置である。

本装置の仕組みについては、図-5のとおりである。

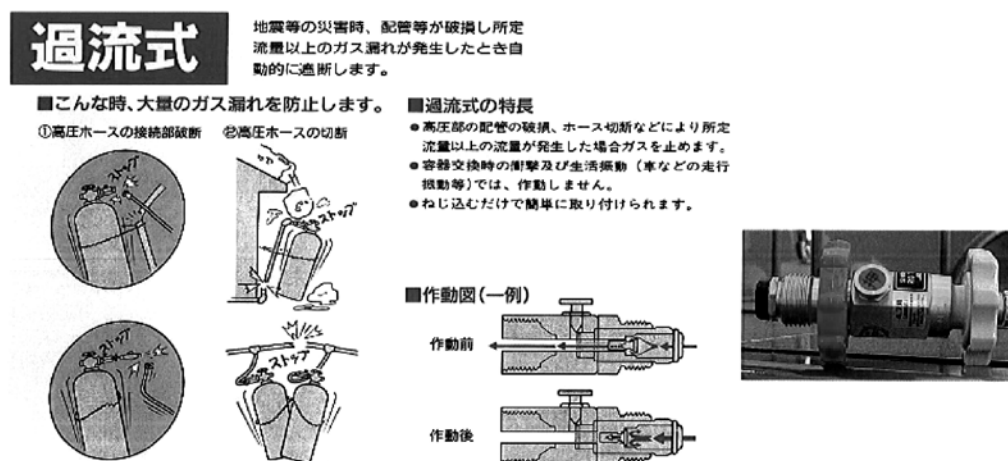


図-5 過流式ガス放出防止装置

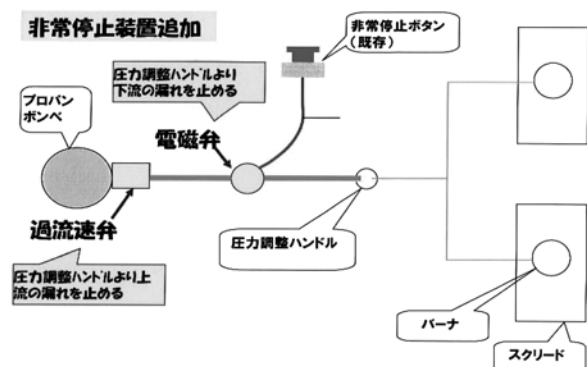


図-6 本装置の仕組み(事例1)

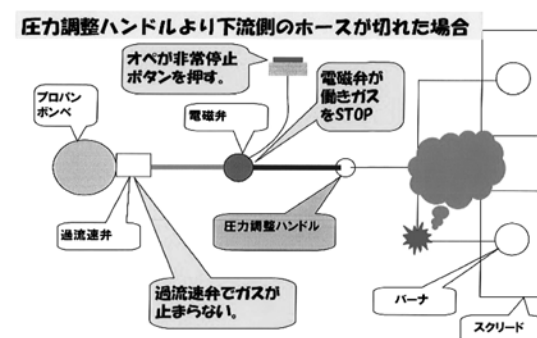


図-7 本装置の仕組み(事例2)

圧力調整ハンドルより上流側、下流側もしくは両方のホースが切れた際、過流速弁が自動的にガスを遮断する安全構造となっている。(図-6、図-7)

『名取川・阿武隈川下流総合水防演習』に参加して

技術部会長 (株)電業社機械製作所 東北支店長 山岸 嗣宏

平成26年5月25日(日)『名取川・阿武隈川下流総合水防演習』が、名取川右岸の名取市高館熊野堂地先（太白大橋上流名取川河川敷）において開催されました。当協会を代表して参加して参りましたので、その内容を紹介します。

開会に先立ち、東日本大震災をはじめとする災害被災者に対し黙祷をささげてからの開会となりました。

開会にあたり、土井国土交通大臣政務官は「東北では昨年、洪水や台風で大きな被害が出た。演習は関係部局が一体となり地域の防災力を向上させる極めて重要な催しである。」とあいさつ。村井宮城県知事は「まもなく梅雨となり台風の時期も控えているので、この演習で水防技術を高めて非常時に備えてほしい。」と呼び掛けられました。さらに小池東北地方整備局長は「これから出水期に入るが、この演習は水防訓練の総仕上げにしてほしい。」と、有事に備える訓練を行う意義について強調されました。

本演習は、名取川・阿武隈川流域の14市町村と宮城県および国土交通省東北地方整備局主催の水防演習で、各行政機関、自衛隊、警察本部、各県の消防機関、地域住民ならびに民間企業等、43機関の協力を得て開催されました。

当日は天候にも恵まれ、東北各地から1,183名の水防団の方々が参加しており、早勢2,500名余りの参加者によって、盛大かつ厳粛に訓練が実施されました。



今年度の総合水防演習のテーマは【「備え・守り・防ぐ」による水害に強い地域づくりを目指して】とし、

- ①名取川・阿武隈川では、大規模な洪水被害が度々発生しており、被害を最小限にとどめるためには、水防団、地域住民、防災関係機関が日頃から水害や地震等の災害に備え、適切な対応を執ることが重要である。
- ②安全で安心な暮らしを実現するため「備え・守り・防ぐ」を基本とし、相互が連携・協働して水害に強い地域をつくるため、実践的な総合演習を行うものである。

とのコンセプトにより、第一部、第二部に分けて実施されました。

第一部 洪水対応演習・情報収集訓練

この訓練は、地元の水防団による洪水対応訓練を実施しました。

河川の増水により、堤防などの被害状況を判断し、適切な工法により被害を最小限にとどめる工法の実施訓練で、竈止め工【亀裂拡大防止】、五徳縫い工【裏法面亀裂対策】、杭打ち積土のう工【裏法面崩れ対策】、木流し工【表法面崩れ対策】、釜段工【場内地盤漏水対策】、改良積土のう工・積土のう工【越水対策】などの訓練を行いました。

また、併せて行われた「東北水防技術競技大会」では、東北六県それぞれの代表市町の水防団が参加し、水防に関する技術を競う大会が開催されました。



今年度は本宮市水防団（福島県代表）が最優秀賞を、鮭川村水防団（山形代表）が優秀賞を受賞され、見事なチームワークを披露し、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮されていました。

第二部 大規模な洪水被害を想定した国・県・市町村・関係機関の連携訓練

この訓練は、豪雨により堤防が破堤したとの想定のもと、関係機関との各種連絡や現地対策本部に集まった職員による情報の共有など、国・自治体・関係機関との連携体制を確実に実施する訓練が行われました。

緊急災害対策派遣隊（国土交通省防災スペシャリスト＝TEC－FORCE）や自衛隊の出動訓練、排水ポンプ車による排水訓練、消防・警察・日赤などによる救助・救援訓練が行われました。

災害対策用ヘリコプター「みちのく号」や災害ヘリコプターを使用しての救助訓練は、迫力があり見ごたえ十分でした。土井国土交通大臣政務官も真剣に訓練を視察し、排水ポンプ車に関して質問もしておられました。



このほか展示ブースでは、国土交通省や宮城県建設業協会などの建設関係団体が、震災対応をテーマにしたパネルを展示していました。さらに、東北学院大学や東北工業大学など地元の大学も出展しており、災害に対する意識が少しずつ広がっていることを感じました。



災害は、いつ如何なるときにやってくるかわかりません。私たちは常にいつ起こるかわからないさまざまな「もしも」のために、一人ひとりができる「備え」をしておかなければなりません。その「備え」が正しく日頃の訓練です。「備え」することで私たちの大切な生命と財産を守っていくことができるのだと感じた一日でした。

【橋梁架設・大口径岩盤削孔の施工技術と積算、 および建設機械等損料講習会】開催

(一社)日本建設機械施工協会東北支部では、例年改定される積算基準や建設機械等損料について講習会を実施しておりますが、平成26年度も大口径岩盤削孔、建設機械等損料、鋼橋架設、P C 橋架設の4テーマについて講習会を実施しました。受講者は65名で、前年に比較して10名ほど多かった。

なお、この講習会は建設系C P D登録対象となっており、全員最後まで熱心に聴講しておりました。

講習会終了後C P D受講証明書を発行しました。

実施内容は次のとおりです。

1. 日 時 平成26年6月9日(月) 9:45~16:40
2. 場 所 ハーネル仙台会議室(仙台市青葉区)
3. 講習会題目
 - 1) 大口径岩盤削孔の施工技術と積算
 - 2) 建設機械等損料の積算について
(昼休み)
 - 3) 鋼橋架設の施工技術と積算
 - 4) P C 橋架設の施工技術と積算
4. 使用テキスト
 - 1) 大口径岩盤削孔工法の積算(平成26年度版)
 - 2) 建設機械等損料表(平成26年度版)
 - 3) 橋梁架設工事の積算(平成26年度版)および
別冊「橋梁補修補強工事積算の手引き(平成26年度版)」
5. その他
 - 1) 講習会で使用したテキストは東北支部で販売しております。講習会に参加できなかった方で欲しい方はぜひご利用ください。
 - 2) 講習会では使用しませんでした、「よくわかる建設機械と損料(2014版)」も在庫がありますのでご利用ください。



会場風景－1



会場風景－2

平成26年度 【情報化施工セミナー(仙台会場)】開催

(一社)日本建設機械施工協会東北支部では、情報化施工の普及と促進を目的に人材育成に関わるセミナー、現場見学会などの活動を実施しておりますが、平成26年3月に当協会本部会員、東北支部会員の情報化施工に関連する企業16社が参加して「情報化施工技術委員会」を設置しました。この技術委員会の活動の一つとしてこのたび情報化施工セミナーを開催しました。

なお、この講習会は建設系CPD登録対象となっており、講習会終了後証明書を発行しました。

講習会の実施内容等は次のとおりです。

1. 日 時 平成26年6月25日(火) 13:00~17:35
2. 場 所 宮城県建設産業会館(仙台市青葉区)
3. 参加者数 30名
4. プログラム等
 - (1) 挨拶 (一社)日本建設機械施工協会東北支部
 - (2) カリキュラム
 - ①情報化施工(推進戦略の説明) (委員長 ㈱ニコン・トリンブル 鈴木 勇治)
 - ②マシンコントロールとマシンガイダンス
(技術の概要、活用方法、導入効果) (委員長 ㈱ニコン・トリンブル 鈴木 勇治)
 - ③盛土の締め固め管理
(技術の外用、活用方法、導入効果) (西尾レントオール㈱ 佐藤 徳康)
 - ④TS出来形管理
(技術の概要、データ作成方法、管理要領の要点) (㈱建設システム 須賀川 純一)
 - ⑤衛星測位(衛星測位の概要、VRS活用事例) (㈱ジェノバ 岩田 好正)
 - ⑥最新の情報化施工の取り組み (関連連各社(西尾レントオール・ニコン・トリンブル))



セミナー会場風景

なお、当支部では同じ内容のセミナーを下記日程で実施する予定です。

7月18日(金) 岩手県滝沢市アピオ、9月5日(金) 山形市総合スポーツセンター、9月17日(水) 福島県郡山市ビッグパレット、10月2日(木) 秋田テルサ、10月3日(金) 青森市アスパム

平成26年度 【第7回建設施工研修会（技術映画会）】開催

（一社）日本建設機械施工協会東北支部では、例年建設施工研修会（技術映画会）を開催しておりますが、平成26年度も開催しました。受講者は約130名で、前年に比較してかなり増加しました。会場では最新技術の記録映画「省エネ立体都市への挑戦 あべのハルカス」、戦前の「ドイツアウトバーンの建設」など珍しい記録映画に、全員最後まで熱心に画面に見とれておりました。

なお、この講習会は建設系C P D登録対象となっており、講習会終了後証明書を発行しました。

研修会の実施内容等は次のとおりです。

1. 日 時 平成26年 7 月 1 日(火) 13：30～17：00
2. 場 所 フォレスト仙台会議室（仙台市青葉区）
3. プログラム等
 - (1) 挨拶 （一社）日本建設機械施工協会東北支部
 - (2) 映画会
 - ①液状化対策技術 総括版 5 工法紹介 （前田建設工業(株)）
 - ②広域的なネットワーク形成に向けて （東京急行電鉄(株)）
 - ③超低空頭場所打ち工法紹介 （鉄建建設(株)）
 - ④孔防護併用場所打ち杭工法紹介 （鉄建建設(株)）
 - ⑤20 t 級ハイブリッドショベル紹介 （コベルコ建機(株)）
 - ⑥F T J （エフツインジェット）工法
 - 2 流線式セメントスラリー噴射攪拌工法 （株不動テトラ）
 - ⑦液状化を防ぐ （株不動テトラ）
 - ⑧ジェットポンプ式サンドバイパス工法 （五洋建設(株)）
 - ⑨アウトバーン （株N I P P O）
 - ⑩島原道路舗装工事 （株N I P P O）
 - ⑪省エネ立体都市への挑戦「あべのハルカス」 （株竹中工務店）
 - ⑫無人化施工技術の実証実験 （株大林組）
 - ⑬災害廃棄物が処理されるまで
 - 災害廃棄物処理業務（石巻ブロック）2013年度版 （鹿島建設(株)）



映画に見入る参加者

支部行事

企画部会

日 時：平成26年 1 月17日(金)
場 所：K K R ホテル仙台会議室
出 席 者：高橋弘支部長他31名
議 題：各部会毎に平成26年度活動計画（案）
について審議
施工部会、広報部会、建設部会、技術
部会
企画部会（合同部会）：平成26年度全
体計画案策定

日 時：平成26年 2 月24日(月)
場 所：東北支部会議室
出 席 者：阿部新治部会長他 4 名
議 題：H25第 3 回運営委員会開催打合せ
①第 1 号議案 平成26年度事業計画
（案）について
②第 2 号議案 平成26年度事業予算
（案）について
③支部監査役について
④その他

日 時：平成26年 2 月28日(金)
場 所：東北支部会議室
出 席 者：阿部新治部会長他 4 名
議 題：H25第 3 回運営委員会開催打合せ
①第 2 号議案 平成26年度事業予算
（案）について
②その他

■第 3 回運営委員会

日 時：平成26年 3 月 6 日(木)
場 所：K K R ホテル仙台会議室
出 席 者：高橋 弘支部長他20名
議 題：①平成26年度事業計画（案）について

- ②平成26年度事業予算（案）について
- ③支部監査役就任報告
- ④その他

日 時：平成26年 4 月18日(金)
場 所：東北支部会議室
出 席 者：阿部新治部会長他 4 名
議 題：①平成25年度事業報告について
②平成25年度事業決算について
③役員の改選について
④表彰について
⑤その他

日 時：平成26年 4 月25日(金)
場 所：東北支部会議室
出 席 者：阿部新治部会長他 4 名
議 題：①平成25年度事業報告について
②平成25年度事業決算について
③支部監査役について
④平成26・27年度役員の改選について
⑤平成26年度事業計画（案）について
⑥平成26年度予算（案）について
⑦その他

■支部監査

日 時：平成26年 5 月 7 日(水)
場 所：東北支部会議室
出 席 者：浅野博之支部監査役他 2 名
内 容：平成26年度 支部事業監査全般

日 時：平成26年 5 月 8 日(木)
場 所：K K R ホテル仙台
出 席 者：高橋 弘支部長他21名
内 容：運営委員会を開催

■支部総会

日 時：平成26年 5 月13日(火)
場 所：仙台ガーデンパレス
内 容：出席議決権数111社（うち委任状65社）
出席者数 75名

①第62回支部総会開催

②特別講演会

演題 「言葉の力、生きる力」

講師 言の葉アーティスト

渡辺 祥子 様

②「E E東北'14」実施計画

③「E E東北'14」予算案

④今後の予定

⑤その他

広報部会

■第2回E E東北'14作業部会

日 時：平成26年2月24日(月)

場 所：フォレスト仙台

出席者：井上秀秋事業対策官他22名

議題：①「E E東北'14」実施計画について

②「E E東北'14」予算案について

③今後の予定

④その他

日 時：平成26年4月8日(火)

場 所：支部会議室

出席者：浅野公隆副部会長他3名

議題：①支部たより167号編集計画について

②平成26年度部会活動について

③原稿執筆依頼について

④その他

■第3回E E東北'14作業部会

日 時：平成26年4月23日(水)

場 所：フォレスト仙台

出席者：東北技術事務所狩野武志副所長他22名

議題：①開催概要

②「E E東北'14」実施計画

③「E E東北'14」予算案

④今後の予定

⑤その他

■第2回E E東北実行委員会

日 時：平成26年5月8日(火)

場 所：フォレスト仙台

出席者：東北技術事務所所長他32名

議題：①開催概要

■「E E東北'14」開催

日 時：6月4日(水)～5日(木)

場 所：夢メッセ宮城

日 時：平成26年6月4日(水)～5日(木)

場 所：宮城県夢メッセ

来場者 12,800名

内 容：①テーマ名

「活かそう新技術 復興から発展へ」

②技術分野

1) 復旧・復興

2) 建設段階

3) 維持管理・予防保全

4) 建設副産物・リサイクル

5) 防災・安全

6) その他共通

③当支部からの出展社 13社

■積算講習会

日 時：平成26年6月9日(月)

場 所：ハーネル仙台

受講者 65名

内 容：①大口径岩盤削孔の施工技術と積算

②建設機械等損料の積算

③鋼橋架設の施工技術と積算

④P C橋架設の施工技術と積算

技術部会

■平成26年度東北地方整備局総合水防演習

日 時：平成26年5月25日(日)

場 所：名取市高館熊野堂地先 名取川河川敷

参加者：小池 剛東北地方整備局長他2,500名

内 容：①洪水対応各種水防工法演習

②緊急避難訓練

③応急給食配給訓練

- ④東北水防技術競技大会
- ⑤自衛隊派遣要請訓練
- ⑥排水ポンプ稼働訓練
- ⑦応急架橋演習
- ⑧防災展開催
- ⑨その他

広報について

- ⑤その他

日 時：平成26年 6 月 4 日(水)
 場 所：岩手産業文化センター（アピオ）
 出 席 者：山田仁一事務局長他 2 名
 内 容：①建設機械施工技術検定試験会場調査
 ②施設及び各試験室状況について
 ③滝沢消防署へ学科試験実施体制の手
 続き
 ④その他

施工部会

■情報化施工技術委員会

日 時：平成26年 2 月17日(月)
 場 所：支部会議室
 出 席 者：小山 茂施工企画課長補佐他19名
 議 題：①情報化施工技術委員会設立趣旨説明
 ②委員長、副委員長 決定
 ③今後の進め方（意見交換）
 ④その他

■情報化施工技術委員会

日 時：平成26年 3 月13日(木)
 場 所：ハーネル仙台
 出 席 者：小山 茂施工企画課長補佐他21名
 議 題：①新規委員紹介
 ②委員会活動目的について
 ③技術復興支援WGからの報告
 ④情報化施工講習会実施内容：事例
 ⑤セミナー活動計画
 ⑥今後の活動における役割分担
 ⑦その他

■情報化施工技術委員会

日 時：平成26年 5 月26日(月)
 場 所：東北支部会議室
 出 席 者：鈴木勇治委員長他14名
 内 容：①東北地方整備局情報化施工研修につ
 いて
 ②情報化施工セミナー（仙台）内容：
 及び担当
 ③復興支援WGからの報告
 ④今後の情報化施工セミナー計画及び

■情報化施工技術委員会

日 時：平成26年 6 月 6 日(金)
 場 所：東北支部会議室
 出 席 者：鈴木勇治委員長他14名
 内 容：①東北地方整備局情報化施工研修につ
 いて
 ②情報化施工セミナー（仙台・滝沢）
 開催について
 ③担当について
 ④その他

日 時：平成26年 6 月10日(火)
 場 所：東北支部会議室
 出 席 者：稲村正弘部会長他 3 名
 内 容：①平成26年度除雪講習会について
 ②除雪講習会資料整理
 ③その他

■建設機械施工技術検定学科試験

日 時：平成26年 6 月15日(日)
 場 所：岩手県滝沢市アピオ
 受験者 1 級 298名
 2 級 1 種 148名
 2 級 2 種 571名
 2 級 3 種 29名
 2 級 4 種 52名
 2 級 5 種 4名
 2 級 6 種 5名

■情報化施工セミナー

日 時：平成26年 6 月25日(水)

場 所：宮城県建設産業会館

受 講 者：30名

内 容：①情報化施工

②マシンコントロールとマシンガイダンス

③盛土の締め固め管理

④T S 出来形管理

⑤衛星測位

⑥最新の情報化施工

建設部会

日 時：平成26年 5 月 7 日(水)

場 所：東北支部会議室

出 席 者：佐野 真部会長他 4 名

内 容：①平成26年度活動計画について

②支部たより167号安全コーナーについて

③特殊現場見学会について

④「E E 東北'14」見聞録執筆について

⑤その他

会 員 消 息

代表者変更

○(株)安藤・間東北支店

専務執行役員東北支店長 岩尾 守

(前 常務執行役員東北支店長)

○(株)荏原製作所東北支社

支社長 増田 雄二 (前 白勢 和人)

○北日本機械(株)

代表取締役社長 小泉 幹男

(前 営業本部副部長 七戸 弘)

○キャタピラー東北(株)

代表取締役会長 富田 祐志

(前 代表取締役 添田 美智男)

○(株)佐藤組

代表取締役 工藤 隆 (前 工藤 昇)

○三和メイテック(株)

取締役常務 富樫 清 (前 常務取締役)

○スバル興業(株)東北支店

取締役支店長 岡部 一朗

(前 取締役支店長 長島 正雄)

○住友建機販売(株)北海道東北統括部

統括部長 長尾 謙吉

(理事統括部長 上遠野 裕雄)

○大成ロテック(株)東北支社

支社長 齋 享 (前 支社長 近藤 雅孝)

○那須自動車(株)

代表取締役社長 那須 斎 (前 那須 洋昭)

○新潟トランス(株)東北営業所

営業所長 斎藤 彰一 (前 島田 徳二)

○日本道路(株)東北支店

執行役員支店長 田村 治

(執行役員支店長 宮村 博三)

○東日本コベルコ建機(株)南東北支社

南東北支社長 加藤 実

(前 北海道・東北支社長 花岡 秀行)

○(株)日立製作所東北支社

支社長 星野 達朗 (前 支社長 伊藤 義文)

○福井コンピュータ(株)北日本営業所

所長 齋藤 光善 (前 宮岡 昭広)

○古河産機システムズ(株)東北支店

支店長 山崎 直樹 (前 支店長 佐伯 義博)

○前田建設工業(株)東北支店

執行役員支店長 青木 敏久

(前 常務執行役員 青木 敏久)

○前田道路(株)東北支店

執行役員支店長 大西 國雄

(前 支店長 大西 國雄)

○升川建設(株)

代表取締役社長 升川 修 (前取締役社長)

○(株)山崎組

代表取締役社長 山崎 隆司

(前 代表取締役 山崎 隆司)

○(株)大和エンジニアリング仙台営業所

仙台営業所長 渡邊 陽一

〒984-0015 仙台市若林区卸町二丁目2番1号

パックス第一ビル

TEL 022-355-2046 FAX 022-355-2047

住所変更

○中館建設(株)

〒028-6104 岩手県二戸市米沢字荒屋30番5号

(新住所)

新規入会

○(株)カナモト

東北地区統括部長 池田 崇

〒983-0013 仙台市宮城野区中野字下小袋田12番
4号

TEL 022-258-5550 FAX 022-259-3932

○佐藤鉄工(株)仙台営業所

営業所長 大黒 元

〒980-0021 仙台市青葉区中央二丁目9番10号

セントレ東北7F

TEL 022-262-0547 FAX 022-212-1177

支部たより 167号

平成26年7月25日発行

発行 (一社)日本建設機械施工協会東北支部

〒980-0802 仙台市青葉区二日町16-1 二日町東急ビル内

TEL 022-222-3915 FAX 022-222-3583

ホームページアドレス <http://www.jcmanet.or.jp/tohoku/>

メールアドレス jcma-futukamati@mbr.nifty.com

平成26年度除雪講習会のご案内

当協会は学術的調査研究を目的とする団体で、日本学術会議協力学術研究団体の称号を付与された団体です。

東北支部では、関係機関のご指導をいただきながら、道路除雪を主体とした除雪作業の安全確保・円滑な除雪作業遂行のための準備として、例年除雪講習会を実施しております。

本年度は、下記の日程で除雪講習会を計画しておりますので、広く道路除雪関係者の方々に受講していただきたく、ご案内申し上げます。

記

各会場とも平成26年8月1日(金)から9月12日(金)必着まで受け付けます。

会 場	開 催 月 日
弘前会場（弘前文化センター）	平成26年9月24日(水)
青森会場（ホテルクラウンパレス青森）	平成26年9月25日(木)
秋田(1)会場（秋田テルサ）	平成26年9月30日(火)
秋田(2)会場（秋田テルサ）	平成26年10月1日(水)
横手会場（横手市秋田ふるさと村）	平成26年10月2日(木)
山形（天童）会場（天童市べにばなスポーツパーク）	平成26年10月8日(水)
新庄会場（新庄市民プラザ）	平成26年10月9日(木)
会津会場（会津若松市会津アピオ）	平成26年10月14日(火)
岩手(1)会場（滝沢市岩手産業文化センター）	平成26年10月16日(木)
岩手(2)会場（滝沢市岩手産業文化センター）	平成26年10月17日(金)
宮古会場（宮古市陸中ビル）	平成26年10月23日(木)
奥州(1)会場（水沢区Zホール）	平成26年10月29日(水)
奥州(2)会場（水沢区Zホール）	平成26年10月30日(木)
仙台会場（フォレスト仙台）	平成26年11月5日(水)

編集後記

支部だより167号の発行にあたり、ご協力頂きました皆様に御礼申し上げます。

今回の巻頭言は東北支部副支部長の鹿島建設(株)東北支店長赤沼聖吾様にご執筆頂きました。震災から3年が経過し、復興は半ばという状況です。今後の復興の後押しをするであろう事業について紹介していただいております。

また、国土交通省コーナーには、東北地方整備局様から応急組立橋について執筆いただきました。会員の皆さまからは、除雪機械展示・実演会、E E 東北'14、名取川・阿武隈川下流総合水防演習への参加報告。支部からは東北支部総会等の活動報告をしております。

さて、仙台ではあまり実感のない今年の梅雨ですが、全国的には局地的な大雨やひょうの報告、巨大台風8号など日々ニュースとなっています。今年は全国的に異常気象となっており、洪水や台風への備えは今後さらに必要となることでしょう。

最後に、ワールドカップで日本は予選敗退し、サッカー熱も少しさめましたが、国会では集団的自衛権行使について熱い議論が展開されています。

これから暑い季節を迎えるに当たり熱中症対策等をして、復興4年目も着実に前進していきたいと思います。

（東日本高速道路(株) 八木 真如）